

## 平成30年度業務実績に関する暫定評価（案）の概要

## 1 業務実績

（単位：百万円）

	H29年度（実績）A	H30年度（見込）B	B - A
経常収益	44,695	46,195	1,500
医業収益	37,017	38,397	1,380
経常費用	43,852	45,479	1,627
医業費用	42,862	44,467	1,605
経常収支	843	716	▲127
経常収支比率	101.9%	101.6%	▲0.3
当期純損益	934	452	▲482

## 2 業務実績全体にかかる総合的な評価（要旨）

医療面	県立病院としての使命を引き続き担い、総合病院の先端医学棟における放射線治療機器や手術支援ロボットの拡充など、 <u>医療の更なる質の向上とそのための体制づくりへの努力</u> が引き続き認められる
経営面	手術件数の増加、集中治療室等の稼働率の向上、新規施設基準の取得、経費削減努力等により、 <u>経常収支においては10年連続で黒字決算を達成する見込み</u>
総合的な評価	<u>医療面・経営面の双方で、中期目標の達成に向けての努力と着実な進展がみられる</u>

## 3 実施状況の調査・分析（項目別 要旨）

県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上	医療の提供	先端医学棟での放射線治療や手術支援ロボットの拡充、循環器病センターの集中治療室の病床拡充、がんゲノム医療連携病院の指定、こども病院での超低出生体重児への心臓カテーテル治療等、医療の更なる質の向上が図られている
	医療技術者の研修を通じた育成と質の向上	先端医学棟に拡張移転したメディカルスキルアップセンターを活用した研修や海外病院との交流等、研修体制の充実・強化が図られており、総合病院の医師宿舎やこども病院の院内保育所の整備等、就労環境の向上も図られている
	医療に関する調査及び研究	先端医学棟内にリサーチサポートセンターを設置し、県からの研究委託による社会健康医学研究やきこえとことばのセンターによる乳幼児難聴支援などに取り組んでおり、県内医療の向上への寄与が期待される
	医療に関する地域への支援	新専門医制度のもと専攻医の確保に努め、県内医療機関への医師派遣、高度医療機器の共同利用、医療観察法の鑑定医としての公的機関からの鑑定要請協力などを通じて、地域医療を支援している
	災害等における医療救護	総合は原子力災害拠点病院として県指定を受け、ここは北海道胆振東部地震のDPA T事務局に職員派遣するなど、災害対応の基幹的役割を果たしている
業務運営の改善及び効率化	柔軟な採用試験の実施や、アソシエイトの採用によるモチベーション向上、薬品・診療材料の適正な調達・在庫管理、診療情報管理機能の強化、業務改善運動の推進等に継続して取り組み、業務運営の効率化が図られている	